

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年2月1日

事業所名: わくわくクラブ岡町校

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	0	0	・パーティションを使用して、個別ブースを作って対応している	
	職員の配置数は適切である	3	2	0	0	・常に配置数は意識して運営している ・人員配置基準は満たしているが、余裕のある状況ではないため、利用者の増加に備えてさらに人員の確保が必要と思われる ・利用者数に応じて適切に調整されている	
	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	0	0	・手洗い場など、子どもが1人でも届くように足台を設置して対応している	・バリアフリーなのかと問われると難しい部分があるため、今後も児童が過ごしやすい環境づくりを心掛ける
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	0	0	・毎日の情報共有時間を確保して全員で共有している ・コロナ対策でこまめな消毒をしている	・責任者による個別の面談等を通して職員一人ひとりの目標設定と改善行動の醸成に努めている
	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	0	0	・保護者からのご意見を共有し、すぐに対応できる環境を心がけて動いている ・今後も家での様子、困っている事を聞いていく	
	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	0	0	・毎年公表している ・保護者の率直な意見を反映できる雰囲気を作っている	
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	1	0	・第三者による外部評価は実施してはいるが、外部の関係機関から指摘等があれば直ぐに改善するようにしている ・児童発達支援センターに何度も足を運んだ結果、職員の方からも信頼を受けていると感じる	
	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	0	0	・他事業所との交流、社内研修、教室別研修等、研修は他事業所よりも多いと感じる ・毎月1回以上、ポジションや役割に応じた研修を実施している ・アンガーマネジメント研修や虐待防止研修を行っている	
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	0	・支援担当教員とのやりとりや、保護者のニーズ等も取り入れている	
	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	0	0	・専門員によるアドバイス等もらっている ・より良いものにする為、改良を行った	
	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	0	0	・立案するだけでなく実行に至っている	
	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	0	0	・さまざまな視点から新たなものを取り入れようと工夫している ・利用者を飽きさせないように、年間、月間で計画を作成している	
	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	0	0	・オンラインなどでも対応している	
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	0	・個別ですること、集団で市かできないことを区別し療育にあたっている	
	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	0	0	・毎日徹底していおこなっている ・都合により、対面での打ち合わせが出来ない場合は事前にメール連絡を入れるなど確実に実施している	
	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	0	0	・書面、口頭と様々な視点から共有している	
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	0	0	・情報管理は素早く正確に行う事を徹底し、より良い支援に活かす様に努めている ・細かな事でも記録に残している	
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0	0	・日々の担当スタッフは児発管に、療育内容詳細を日々伝えている	
ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	0	0	0	・児童の特性に応じて組み合わせている ・定期的に見直している		

関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0	0	・専門スタッフが担当するようにしている	
	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1	0	0	・学校との情報共有はまだ限定的であるため、その対象を広げることが今後の課題である	
	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	0	0	0	・医療的ケアが必要な児童が在籍する場合は主治医等と連絡体制を整える管理職から全スタッフへ情報が行き渡る仕組みが必要 * 現状、医療的ケアが必要な児童の利用無し	
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	0	0	・保護者の要望に応じて実施している	
	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	0	2	0	・該当者がいないが、いる場合はもちろん行う ・まだ該当者はいないが、支援内容の情報共有はいつでもできるように記録を個別でファイリングしている	
	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	0	0	・サービス担当者会議や事業所説明会等、巡回指導で助言を受けている ・いただいた助言や意見は可能な限り取り入れ、実践をしている ・常に受けている	
	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	3	0	・コロナ禍の為、実施していない ・終息すれば検討する ・利用児童の兄弟の来室は積極的に受け入れている	
	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	1	0	・積極的に参加している	・決まったスタッフのみの参加となっているので、他のスタッフも参加出来る様に工夫していく
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0	0	・日々保護者との共有時間を持つようにしている ・送迎時はもちろんのこと、状況に応じて電話、メールやWeb会議システムを利用して連絡を取っている	
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	0	0	・必要に応じて行っている ・「トレーニング」と言えるほどのものではないが、日々のコミュニケーションの中で行っている	
保護者への説明責任等	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	0	0	・契約時に説明を徹底している	
	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	0	0	・保護者からの悩みはもちろん、今後悩むだろうことを予測した対応もするようにしている ・保護者からの要望があれば、対面や電話等で都度面談を実施している	
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	1	0	・感染症対策を考慮し、今後少人数制やオンラインシステムを利用した形で提供していくことが必要 ・コロナ禍の為、直接顔を合わせての保護者会は行っていない ・オンラインツールを用いて行う方向で考えている	
	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	0	・すぐに保護者と話すよう心掛けている	
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	0	0	・ホームページで活動報告を毎週実施している	
	個人情報に十分注意している	5	0	0	0	・社内での規則と教室の規則も徹底するようにしている	
	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0	0	・特性に応じて絵カードやPEGSを用いている	・基本的事項と考え配慮しているが、考えが統一出来ないスタッフがいる為、要研修
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	1	0	・コロナが終息すれば行いたい ・今後、地域との連携を活かした行事を可能な範囲で実施していきたい	

非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0	0	0	・定期的に訓練を行うようにしている
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	0	0	・災害の時の知識やライフハック、実際の避難などを行っている
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	0	0	・研修を常に行っている
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1	0	0	・現状該当児童がいない ・必要に応じて保護者への説明を図っているが、十分とは言えない ・今後は契約時における説明を徹底していき それと同時にスタッフにも同じように研修をしていく
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	0	0	・医師の指示所は貰っていないが、問合せ、体験、イベント応募に必ず確認し、スタッフ間で共有している
	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	0	0	・日々の報告書で全員で共有